

⑰ 千葉天夢先生像



郷土茂原市の先覚者、千葉天夢（本名彌次馬、1862～1920）先生は、文久2年埴生郡永吉村（現、茂原市上永吉）に生まれ幼にして敏、長じて東京帝国大学医科大学（現、東京大学医学部）にて医学を修め、千葉総本家第35代当主を継承すると共に、家業としての眼科医療において、人々に仁術を施す傍ら農業改良・天然ガスの開発など、地域の福祉の向上に多大の業績を残された。

また教育者としては、大成館（現、長生高等学校）初代館長、茂原静和女学校（現、茂原高等学校）の初代校長として、郷土の子弟の薫陶にあたり、幾多の逸材を育成された。

日常、質素儉約を旨とし、郷土の繁栄と民度の向上に心血を傾注されたが、病を得、大正9年惜しくも58歳の生涯を閉じられた。

没後、昭和10年12月、遺徳顕彰事業として、当時の長生中学校（現、長生高等学校）に銅像が建立されたが、不幸にも昭和18年戦時下の金属類供出運動により、国家に献納され再び還らぬところとなった。

昭和59年、幸いにも当時の銅像原型（石膏像）が、茂原高等学校に保存されていたのを、ブロンズ立像に再建する気運が高まり、「千葉天夢先生御像保存事業会」が発足、本像創作50周年を卜して、昭和60年12月、英姿が再び蘇ったのである。

なお作者は、今日90歳を超えてなお本邦彫刻界の泰斗として活躍中の、文化勲章・文化功労者に輝く澤田政廣氏である。

昭和60年12月15日

千葉天夢先生御像保存事業発起人会

会長 吉野正一